

景況動向指数(Diffusion Index)

(2025年1月～3月)



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

調 査 対 象 事 業 所

長浜市商工会 管内100事業所

製 造 業(20事業所)

建 設 業(20事業所)

卸 小 売 業(20事業所)

飲食宿泊業(20事業所)

サービス業(20事業所)

＊調査期間 2025年1月～3月

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関することの目的で実施した資料です。

＊D I とは？

本報告書の中で%以外に用いているD I 指数とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略です。

各調査項目について増加（上昇、好転、長期化）企業割合から減少（低下、悪化、短期化）企業割合を差し引いた値を示します。

D I が+（プラス）なら強気（楽観）、－（マイナス）なら弱気（悲観）を表します。

例えば売上高で増加企業 50%、不変企業 30%、減少企業 20%の場合、

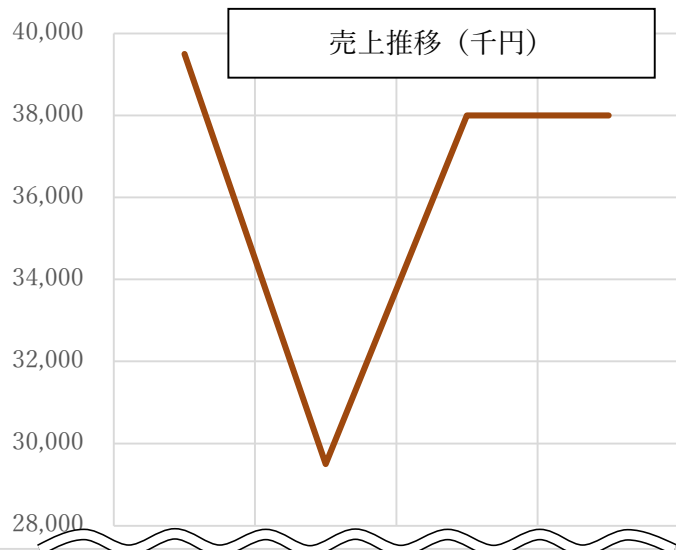
D I 指数・・・ $50\% - 20\% = 30$ となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表しています。

製造業（2025年1月～3月）DI 値抜粋

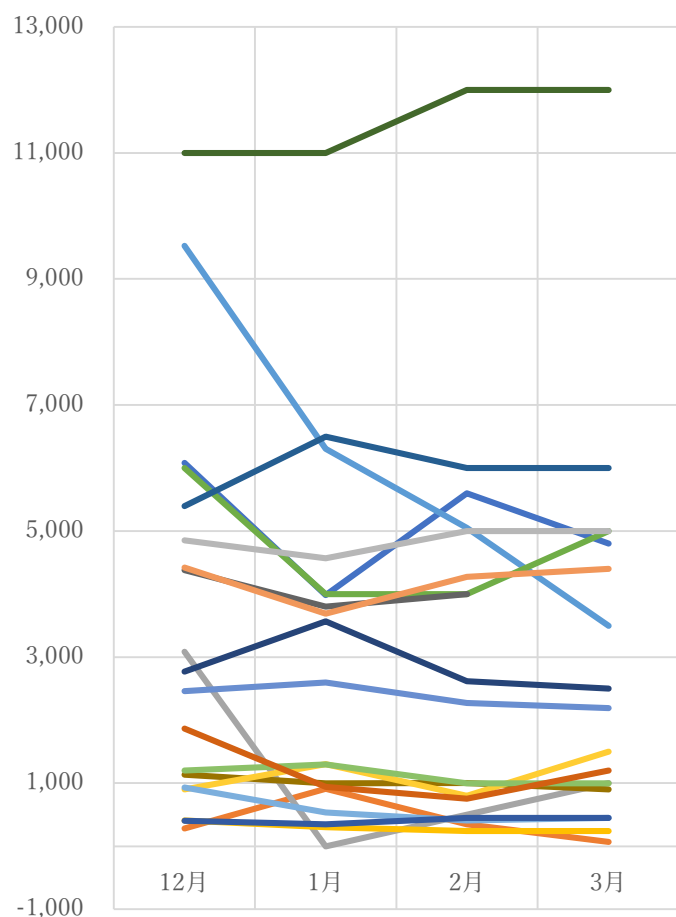
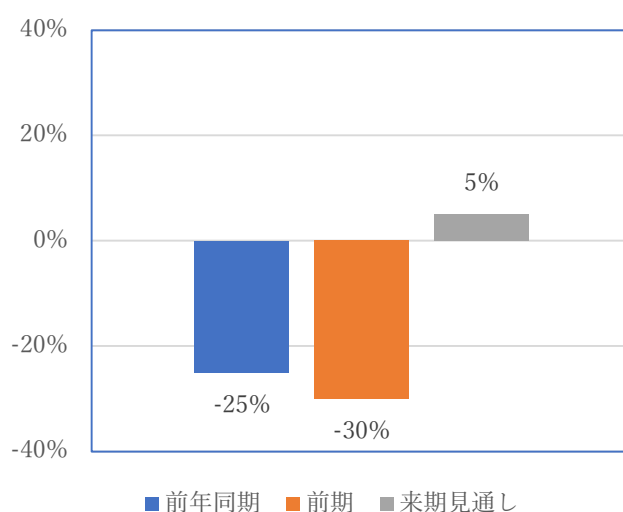
コメント

製造業の業績判断にかかるDIは、足元では厳しいものの他業種に比して来期の見通しは下げ止まりの声が見受けられる状況である。

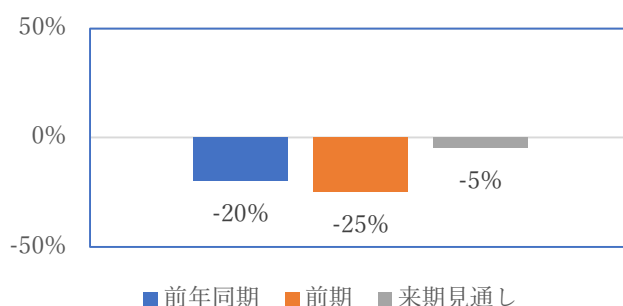
売上DIは前年同期▲25、前期▲30と足元は厳しいが、来期+5と下げ止まりの兆しがある。資金繰りDIは前年同期▲20、前期▲25、来期も▲5と売上DI同様の傾向である。原材料仕入単価DIは高止まりで、前年同期+55、来期見通しとも+45と原価上昇の影響を挙げる企業が過半である。従業員増減DIは前年同期▲25、来期見通しは+5と若干の増加に転じる見込み。設備の操業率も前年同期▲5、来期+15の状況で回復の兆しがある。設備投資は今期、来期とも低調である。直面している経営の問題として、原材料価格上昇以外に従業員確保難や人件費増加など雇用環境の影響を挙げる声が多い。個別の声としては、展示会で新規獲得もあり売上は少し上がるかと思いますが、原材料の価格が企業努力で吸収できないほど上昇しているので、商品価格に転嫁するタイミングを探しています。前期比売上減ながら収益率は多少改善見込。原材料と諸経費が高止まり、更に卸売単価改定の恐れ（6月から改定予定）。また、中心となる従業員確保も厳しい状況。と、厳しいながら若干の改善の声が聞こえる。



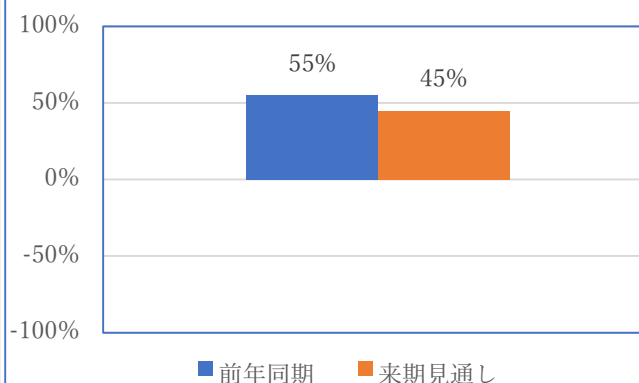
売上DI



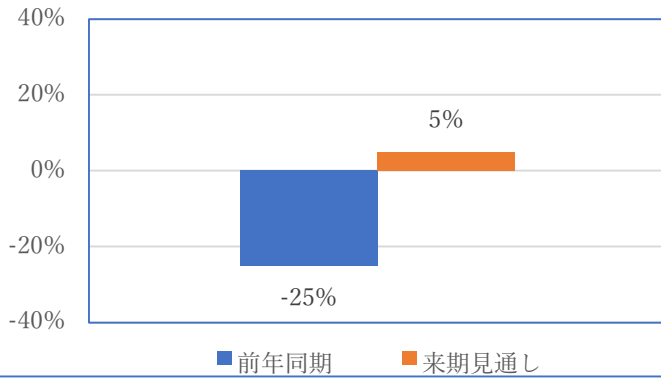
資金繰りDI



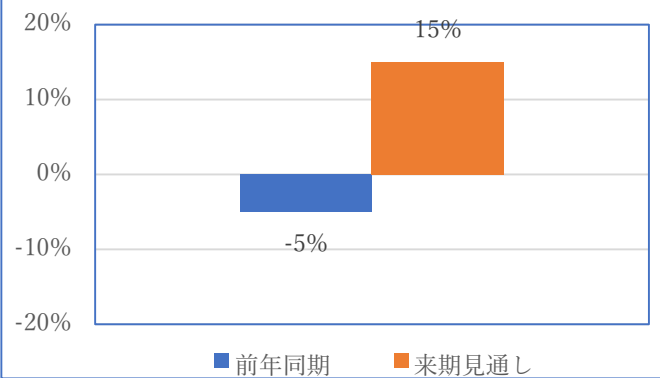
原材料仕入単価DI



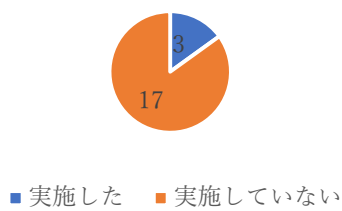
従業員増減DI



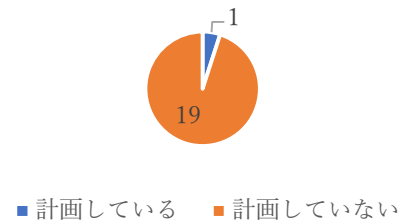
設備操業率DI



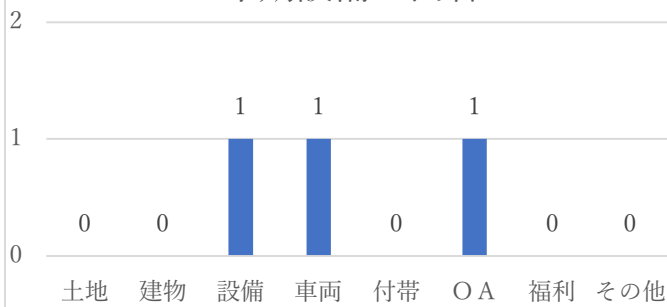
今期設備投資



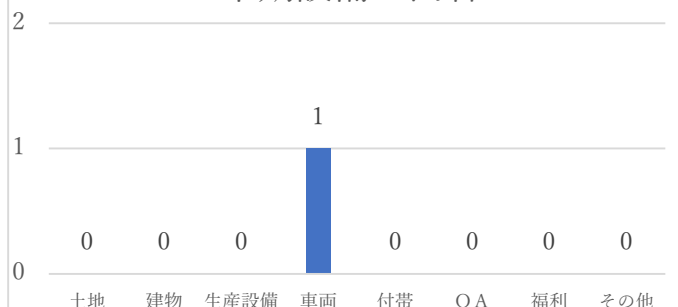
来期設備投資



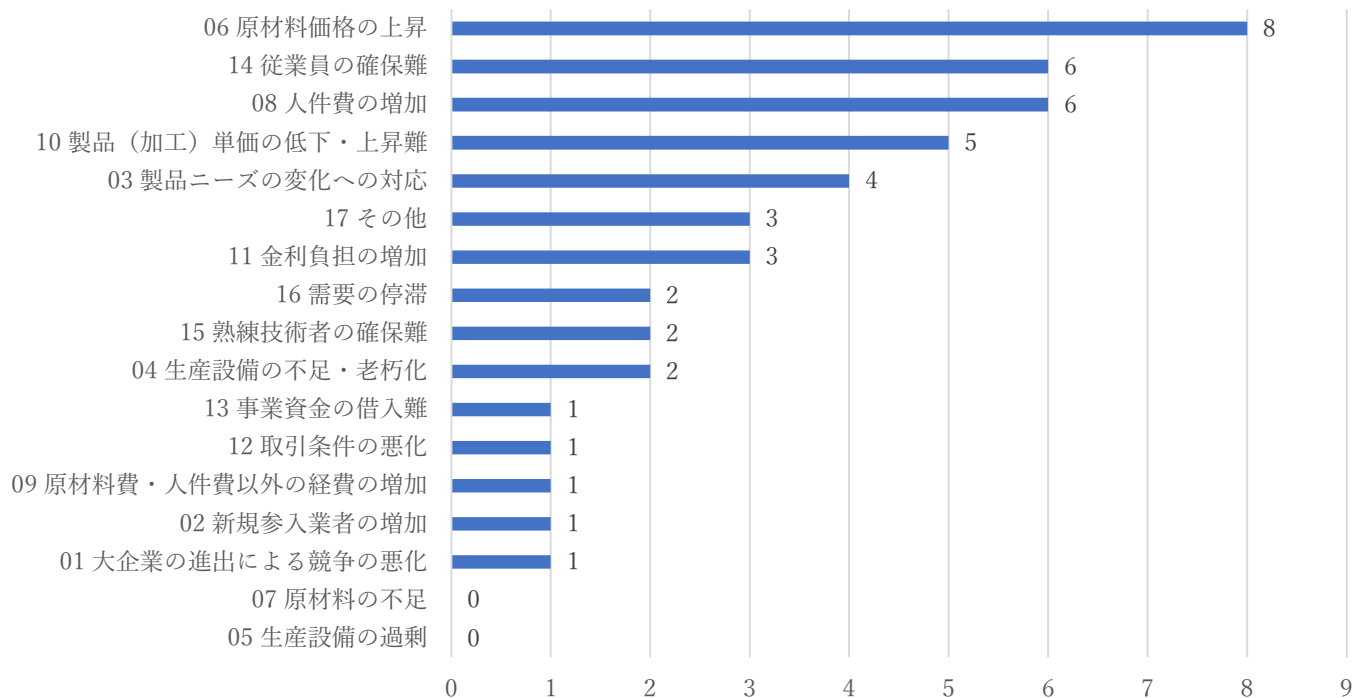
今期設備の内容



来期設備の内容



直面している経営上の課題



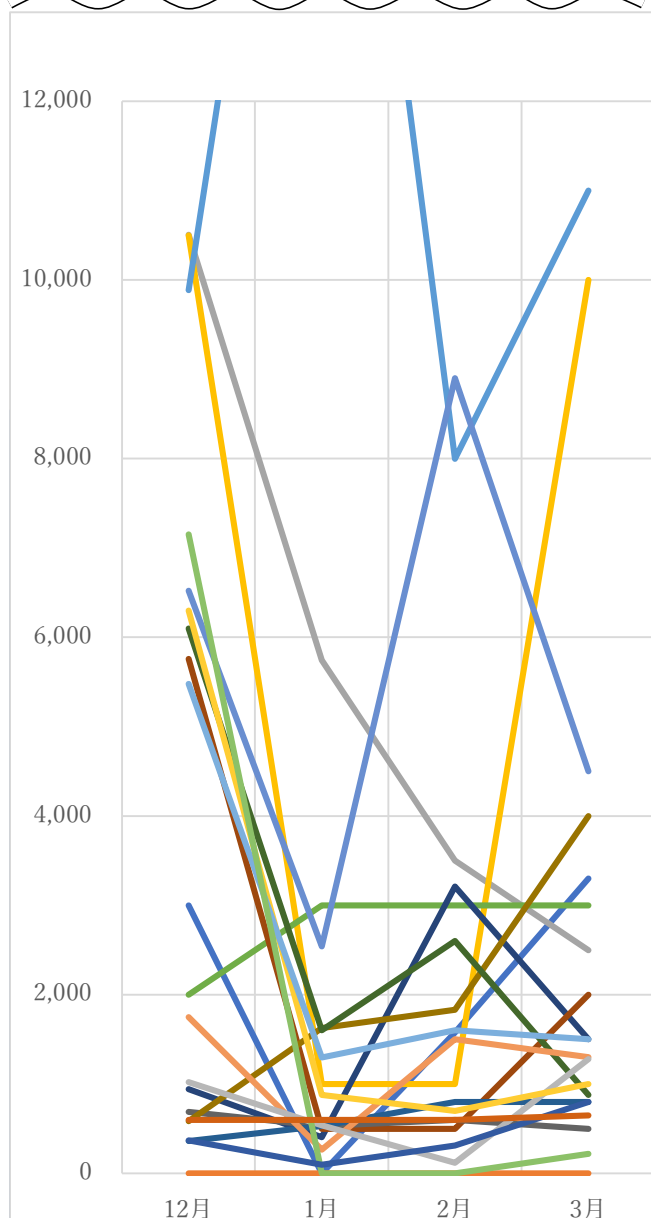
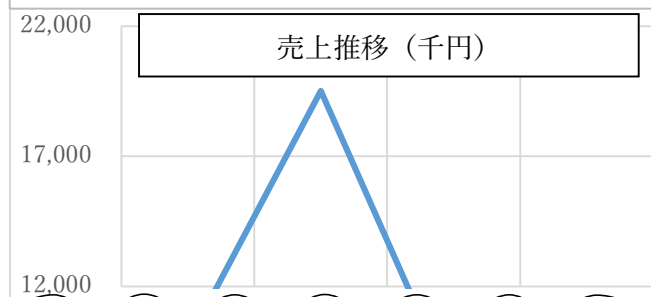
建設業（2025年1月～3月）DI 値抜粋

コメント

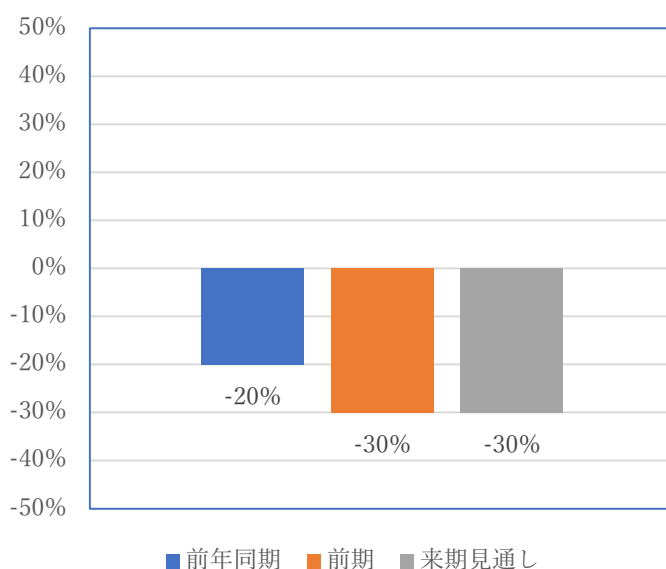
建設業の業況は、引き続き低調な状況で先行きも厳しい見通し。原材料価格等経費上昇の影響が続き採算面、資金繰り面ともに厳しい状況が続いている。

完成工事高DIは前年同期▲20、前期▲30、今後の見通しは▲30と厳しい状況が続く。

材料原価上昇を上げる声が引き続き大きく、前年同期で値上がり+45、来期見通しも+50と上昇を懸念する声が多い。採算DIも前年同期▲35、来期も▲40と不安の声が多い。資金繰りは前年同期▲35、前期比▲35、見通しは▲30と底の见えない状況が続く。設備投資については今期車両を更新する企業はあるが今後の見通しは少ない。直面している経営課題として、材料価格の上昇と見積価格の値上げが厳しいと上げる声が多い。個別の企業の声としては、建築基準法の改正で4月以降に着手する工事がやりにくくなると思われます。どれくらい影響があるか分かりませんが、建築確認の手続きや工事が大変になると思います。と法改正による影響を懸念する声が特徴的である。その他材料代の上昇が止まらず便乗値上げかと思われるケースもありますが、我々がもがいてもどうにもならないので取引業者を増やして売上を増やすように考えています。何かチャンスがないか模索していますが難しいと感じています。と苦戦の声があった。

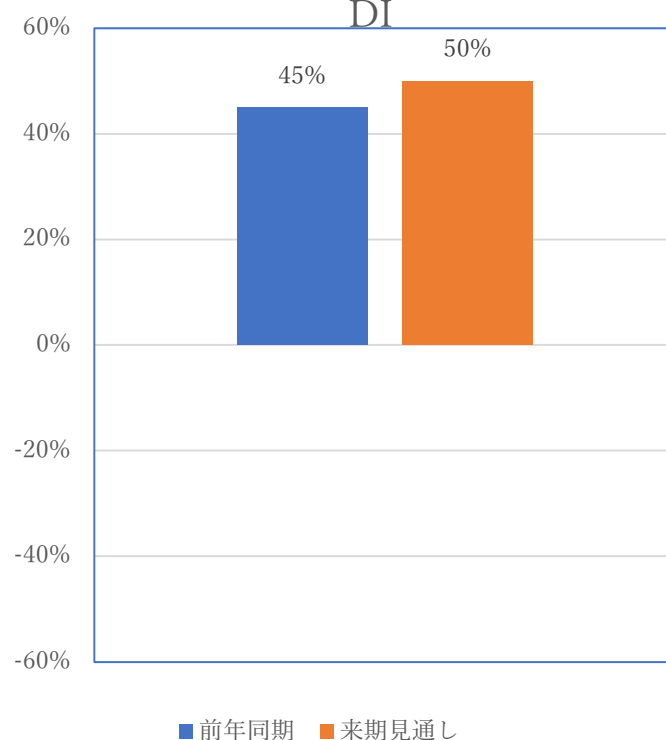


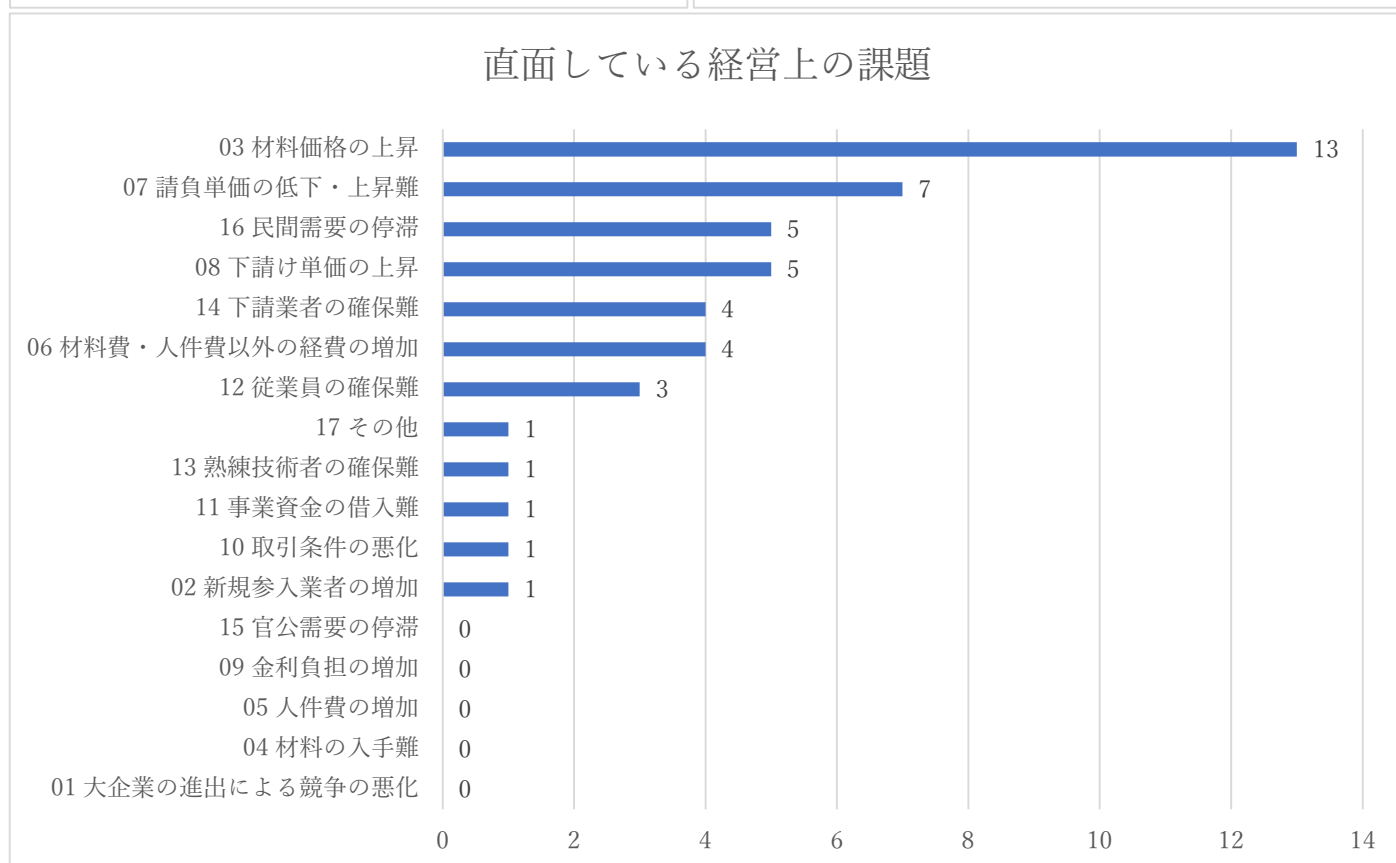
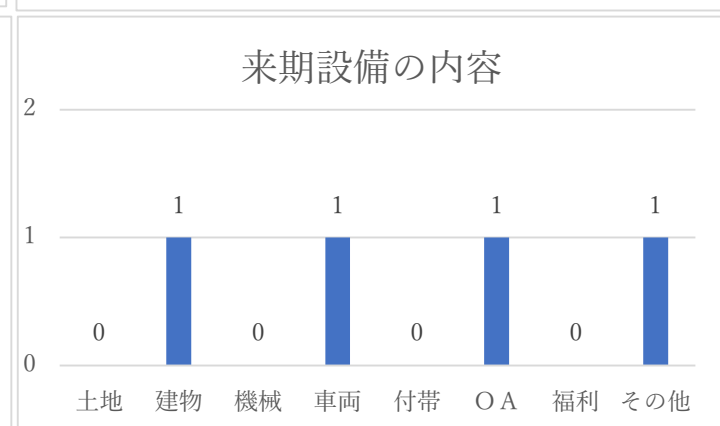
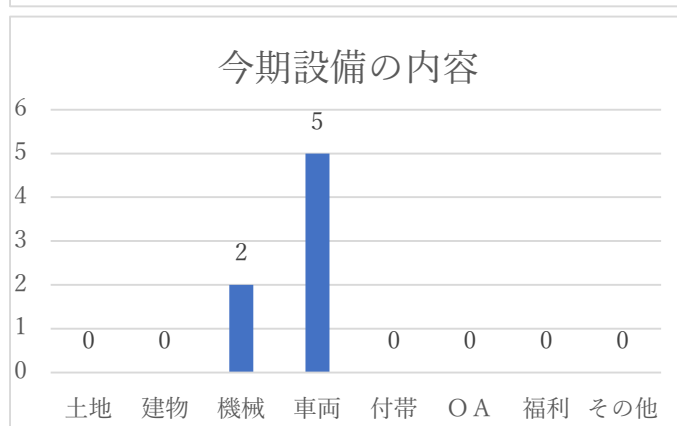
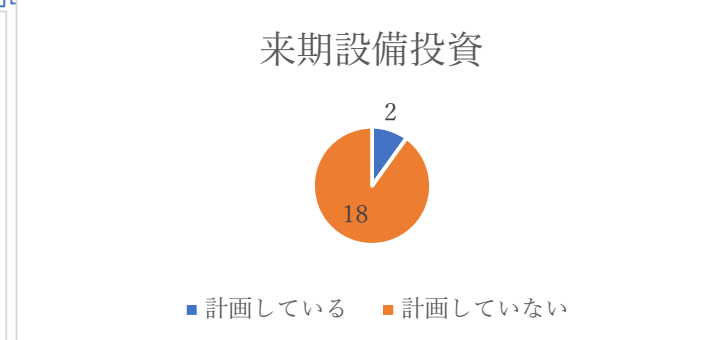
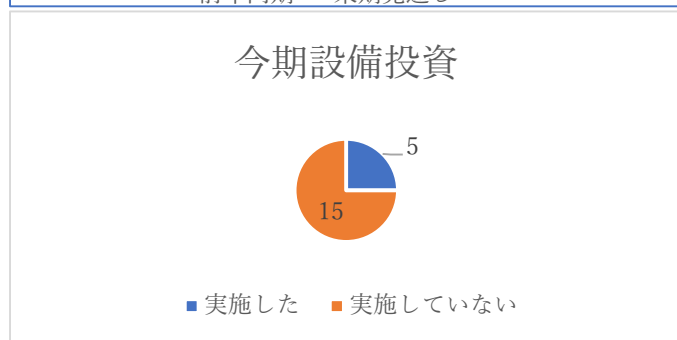
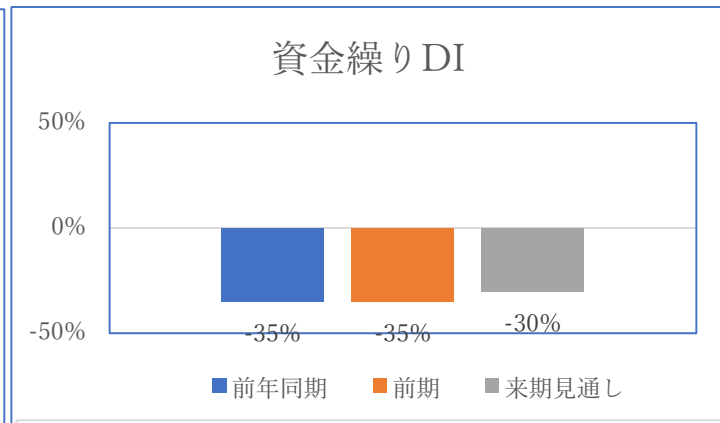
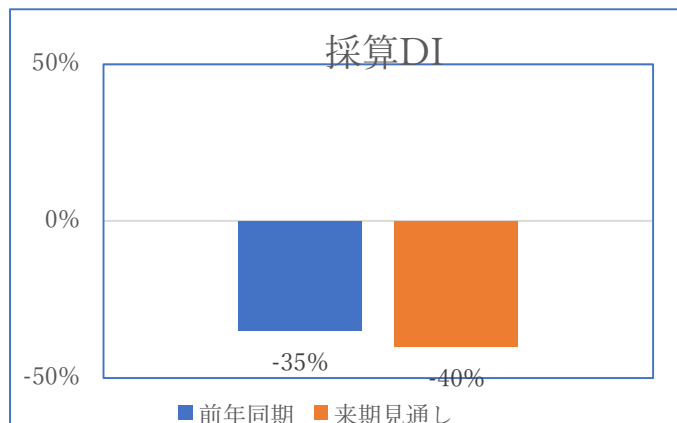
売上DI



材料仕入れ単価

DI

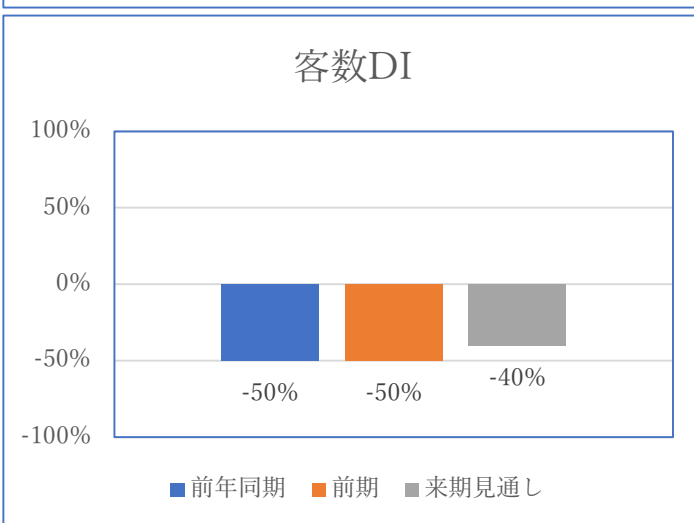
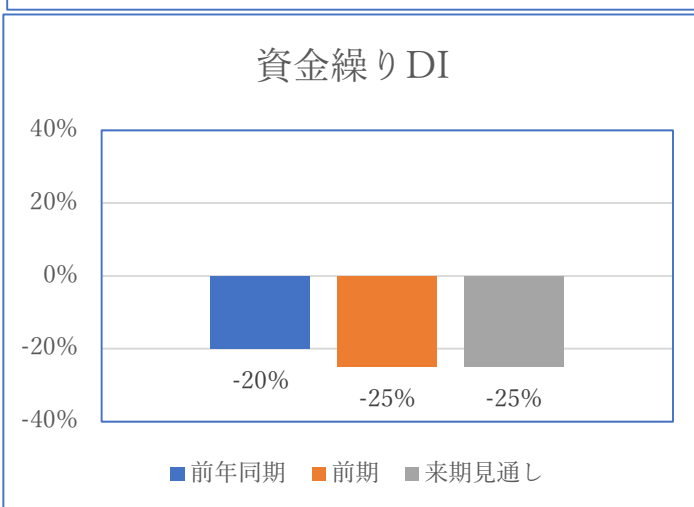
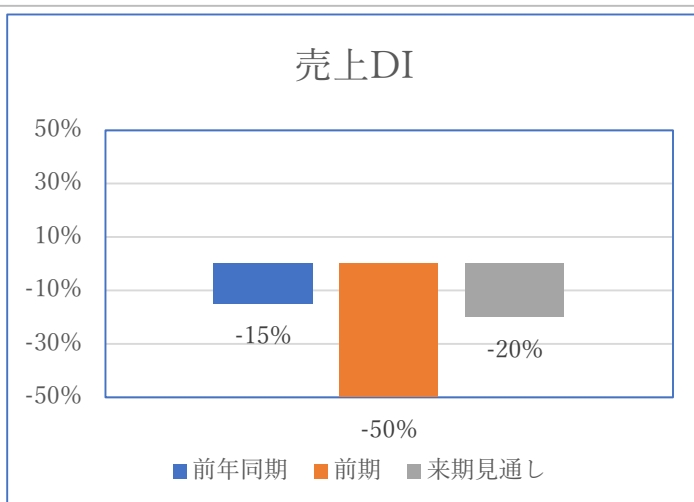
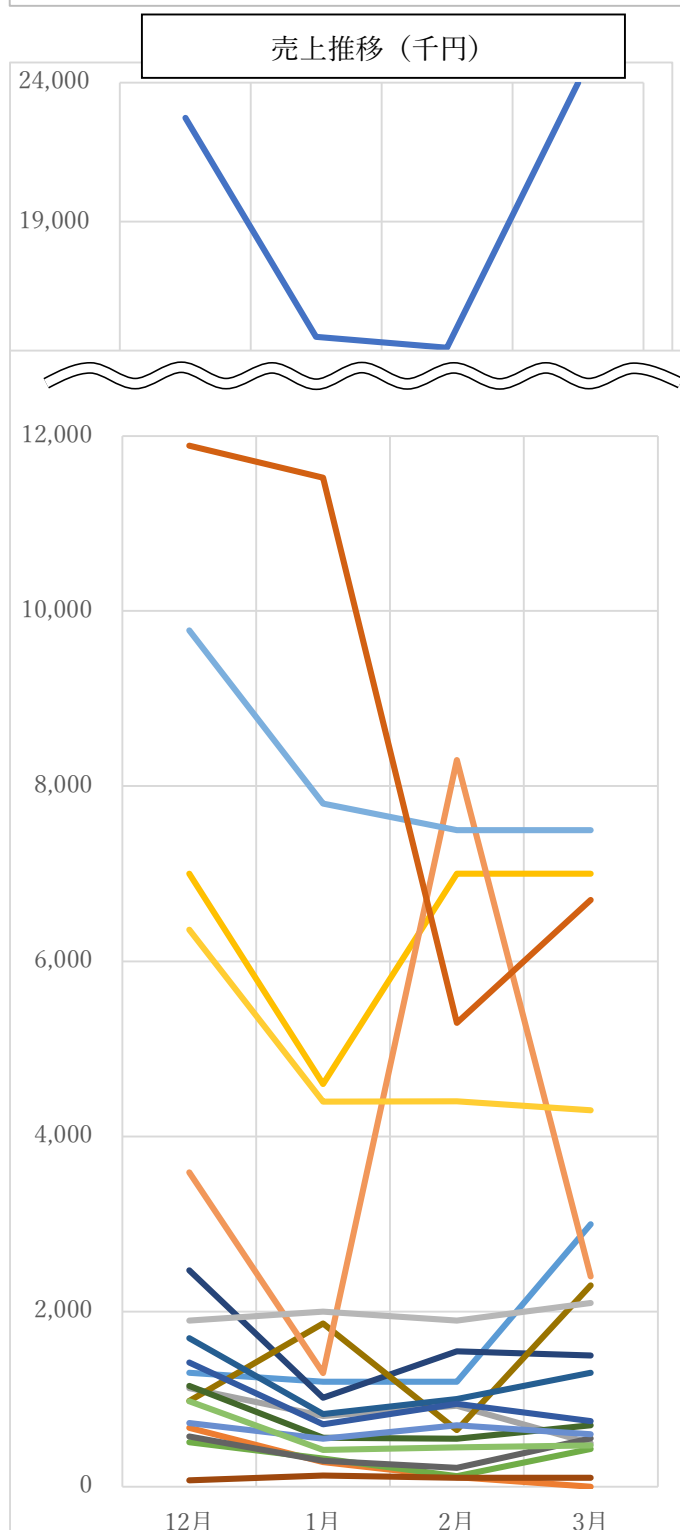




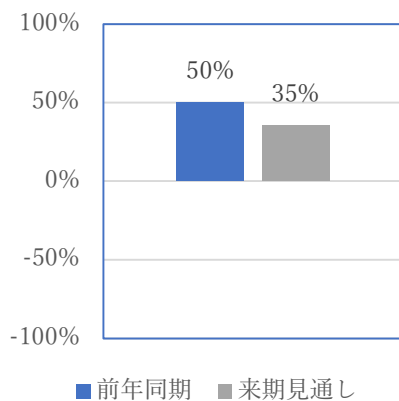
卸小売業（2025年1月～3月）DI 値抜粋

コメント

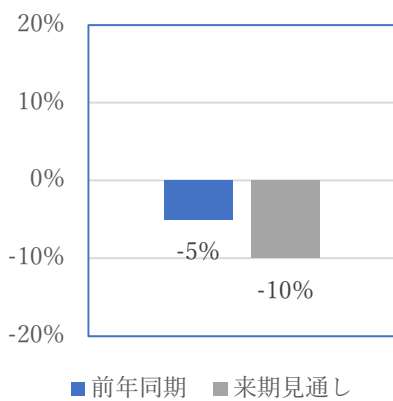
卸小売業の業況に関するDIは、足元の売り上げ減少で厳しい状況が続いている。仕入原価上昇の影響を挙げる声も変わらず多い。売上DIは前年同期▲15、前期からは▲50と失速の状況であり、来期の見通しも▲20と回復見込みが乏しい。資金繰りDIについては、前年同期▲20、前期▲25、来期も▲25で依然として厳しい状況である。客数も低調で前年同期▲50、前期▲50、来期見通しも▲40と落ち込みを懸念する割合が多い。仕入単価上昇の声を挙げる声は前年同期+50、来期見通しも+35と依然として高止まりである。借入難度の前年同期▲5、来期見通しは▲10と不安の声は続く。直面している経営課題として、仕入単価上昇を挙げる声が多。個別の声として、今期は仕入単価の上昇だけでなく天候が悪かったので、客数が減少した。景気が悪いので商品単価も上げづらい。仕入価格の高騰が続き、値上げのタイミングを判断するのが難しい。諸物価高騰もあって、顧客からの代金回収の滞りが以前よりも多くなっている。また、仕入単価の上昇が顕著だが販売価格への転嫁が困難であり、利益がでない。と、値上げに逡巡する声がある。特に2月は10年に一回の寒波が2回と大きく放送されたことにより、人流が少なくなり営業は低調となっている。春の訪れが早くなれば人流が戻ることが期待される。といった春先からの回復を期待する声が複数聞かれた。



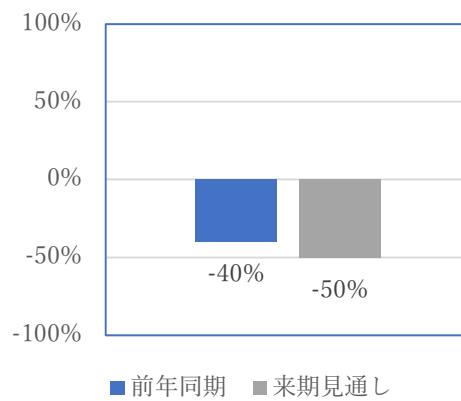
商品仕入額DI



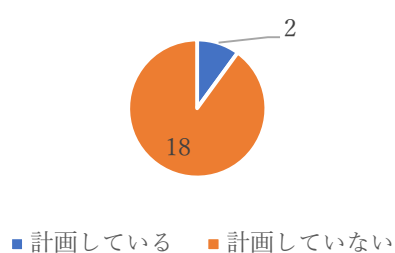
長期借入難度DI



採算（経常利益）DI



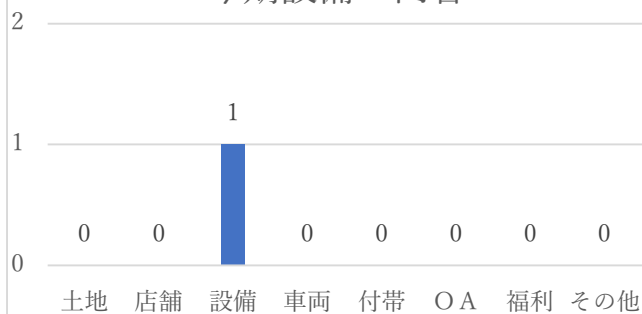
来期設備投資



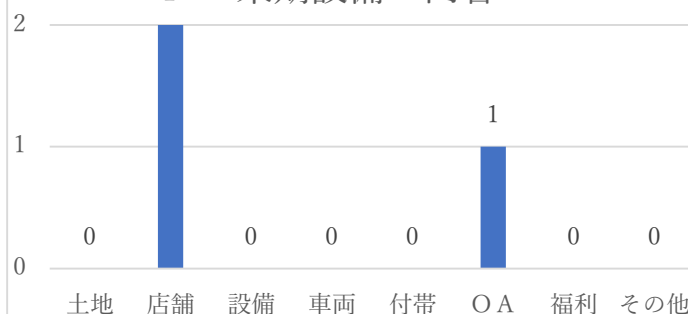
今期設備投資



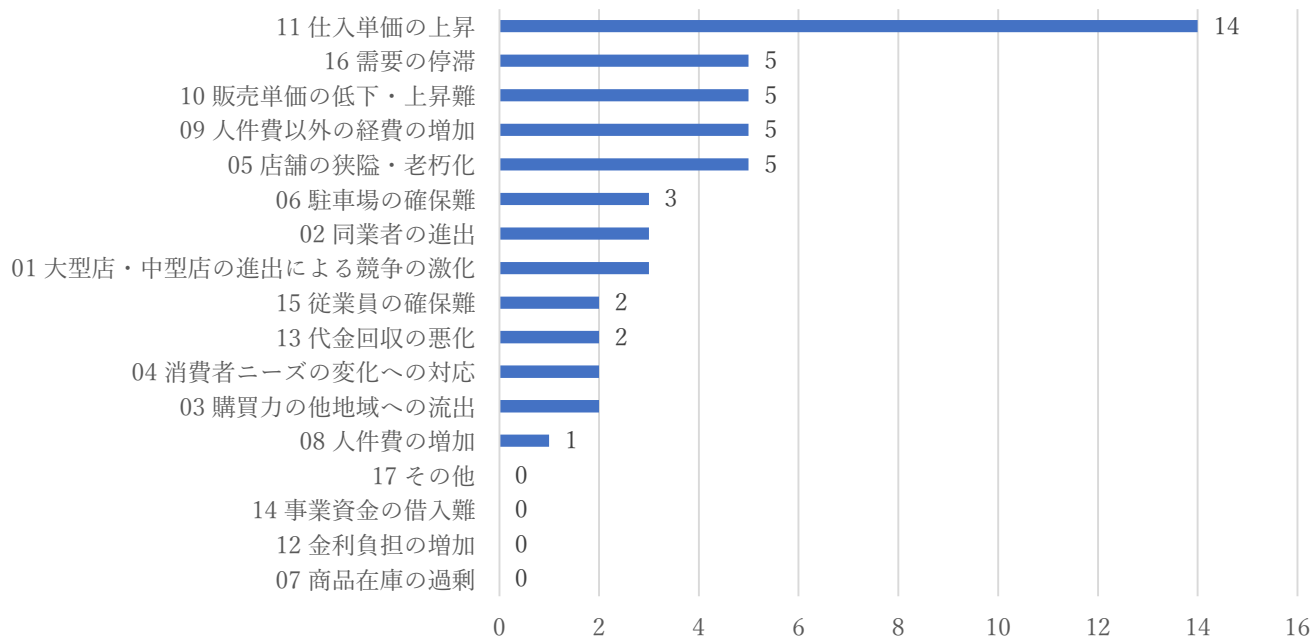
今期設備の内容



来期設備の内容



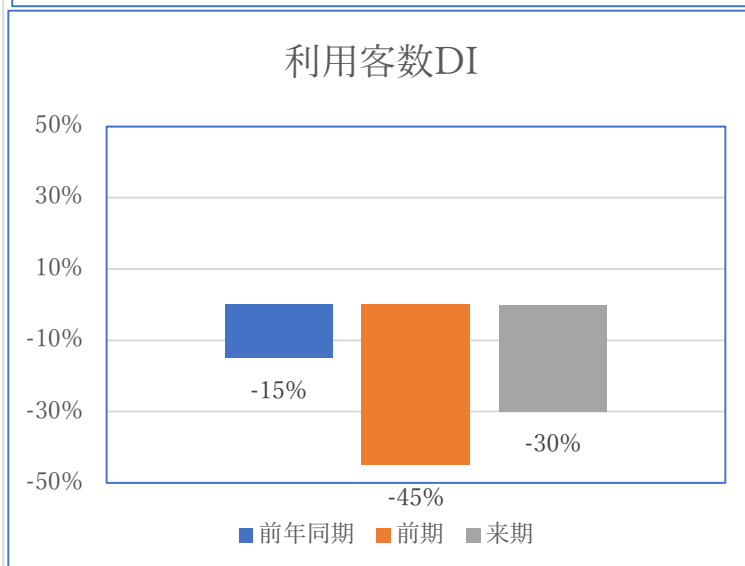
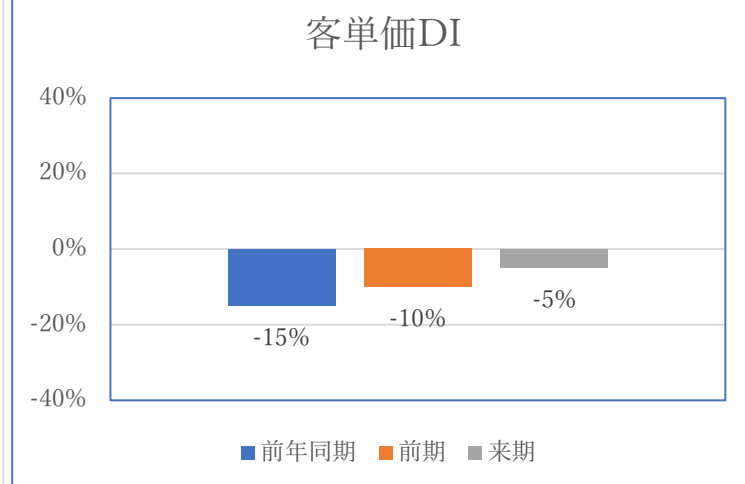
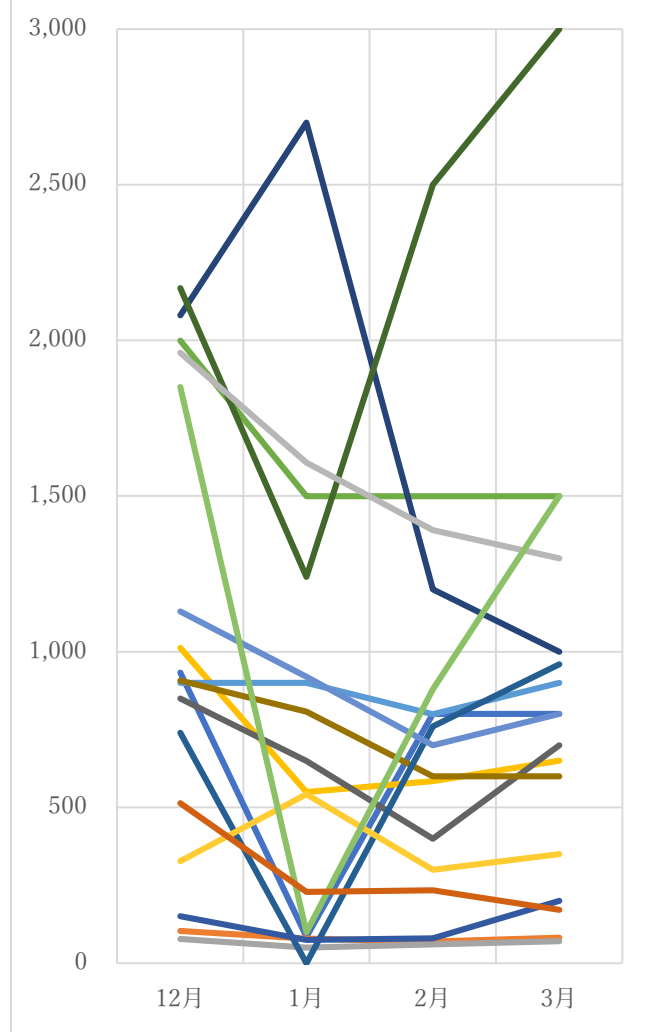
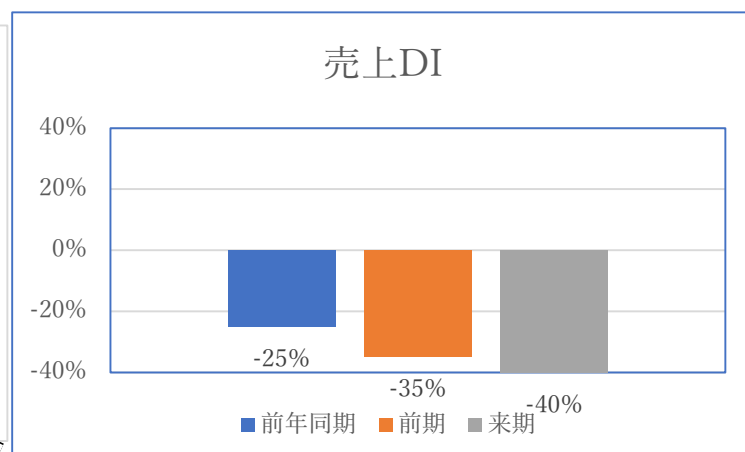
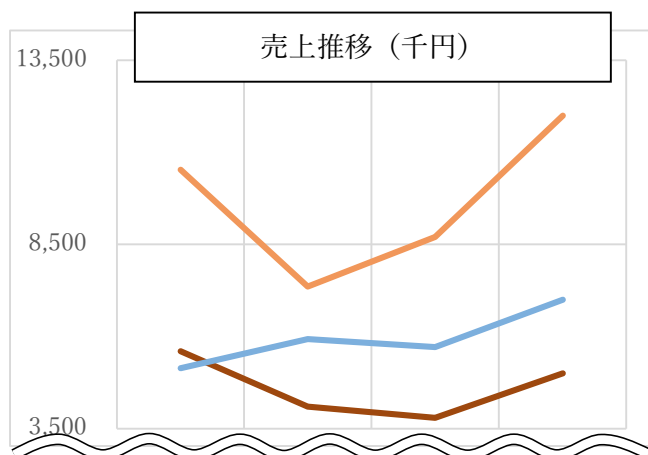
直面している経営上の課題



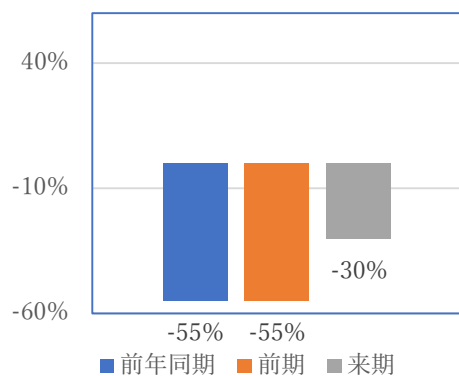
飲食宿泊業（2025年1月～3月）DI 値抜粋

コメント

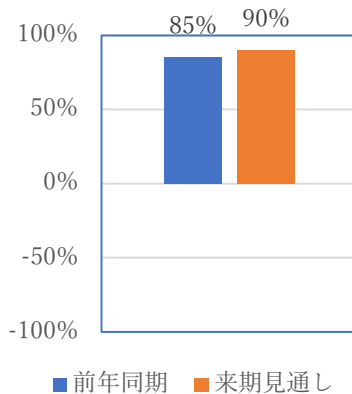
飲食宿泊業の業況に関するDIは、足元も先行きも厳しく、原価上昇により採算が厳しい状況が続いている。売上DIは前年同期▲25、前期▲35、来期は▲40と先行き不安な状況が続く。客単価DIは前年同期▲15、前期▲10、来期は▲5と低調である。利用客数DIは前年同期▲15、前期▲45、今後の見通しは▲30と前期比厳しい落ち込みである。資金繰りDIは前年同期と前期とも▲55来期▲30と資金繰り悪化が続く。仕入単価の上昇は前年同期+85来期見通しは+90と原価上昇の声が大半である。採算は前年同期、来期見通しとも▲75と非常に厳しい見通しである。設備投資は全く動きがない。経営課題には仕入単価の上昇を上げる声が顕著である。個別の声として、例年、冬季は雪などの天候に左右され需要が低迷し厳しい期間である。食材等の仕入価格や人件費が上昇する中、利用価格を改訂しているものの価格転嫁の効果にタイムラグがあり収支状況、キャッシュフローは厳しい。1月2月は天候不順により雪が多く非常に客足が鈍り2月の売上は前年の50%もないかもしれない。売上が伸びずこのままではいつ倒産するか分からない。もっと自信を持って値上げするようにと助言もいただくがなかなか判断できず困っています。自社アピールもSNSできずスランプに陥っています。など厳しい声が多い。



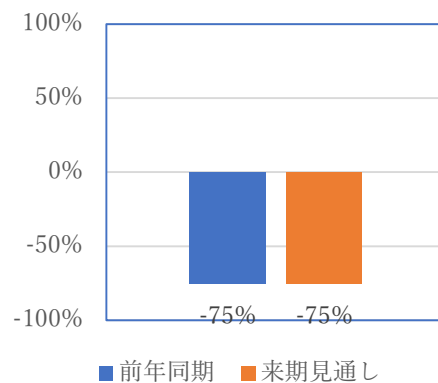
資金繰りDI



仕入単価DI



採算（経常利益）DI



今期設備投資



来期設備投資



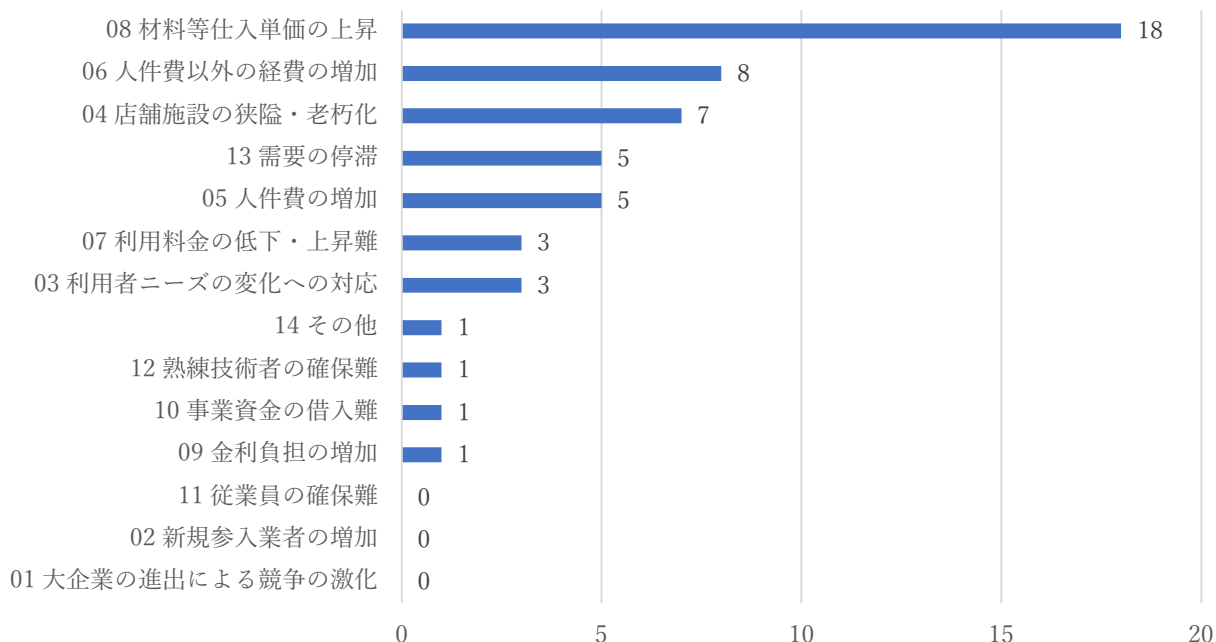
今期設備の内容



来期設備の内容



直面している経営上の課題

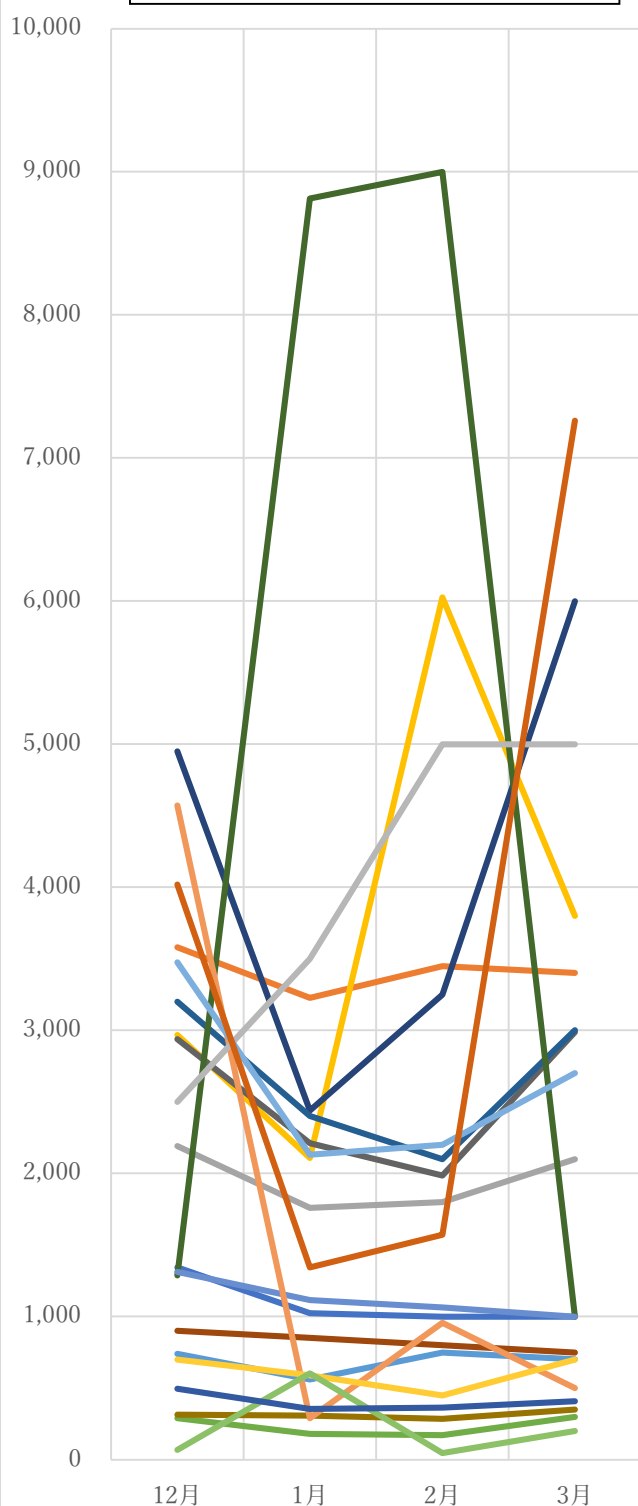


サービス業（2025年1月～3月）DI 値抜粋

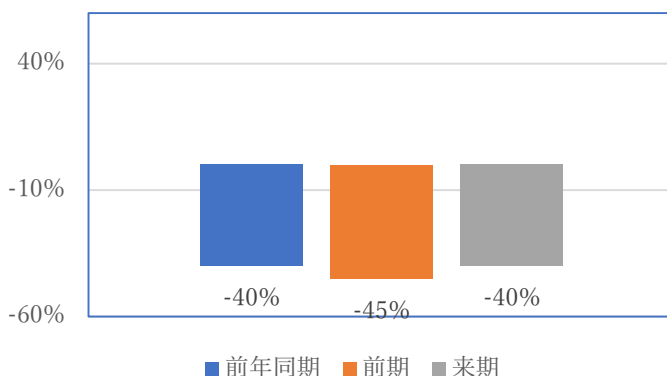
コメント

サービス業の業況は回復傾向から一転して厳しい状況となっている。売上DIは前年同期▲40、前期▲45、来期見通し▲40と足元で下落しており回復見通しも厳しい。客単価DIは前年同期±0、前期▲20、今後の見通しは▲15と低調である。客数DIは前年同期▲50 前期▲45、今後の見通しは▲35と厳しい状況が続いている。資金繰りDIは前年同期▲30、前期▲20 来期も▲15と低調である。仕入単価DI前年同期+65 来期見通し+45と原価上昇の声が多い。採算DIの前年同期▲30、来期見通しも▲25と採算悪化が続いている。設備投資も低調である。個別の声としては、今年の2月は雪が多くて来客が少なかった、と気候の要因を上げる声。12月、3月は繁忙期で毎月売上は伸びるが、1月、2月の閑散期が足を引っ張り収益はそれほど増加しているように感じない。来期は閑散期に売上を伸ばす方法を考えていきたいという美容室の声が特徴的である。その他、物価高による需要停滞の影響が大きく、一時的な景気対策（ペイペイ等）でも良いので何かしていただくことが必要と思います。という支援施策に期待を寄せる声もあった。

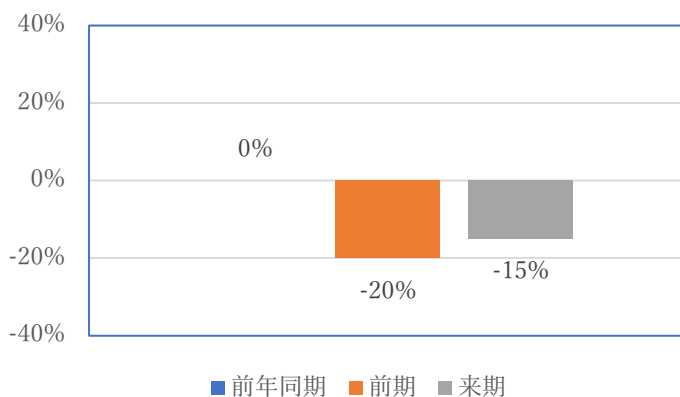
売上推移（千円）



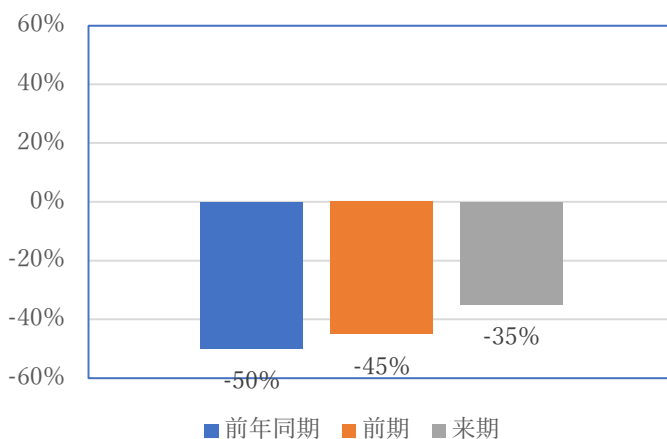
売上DI



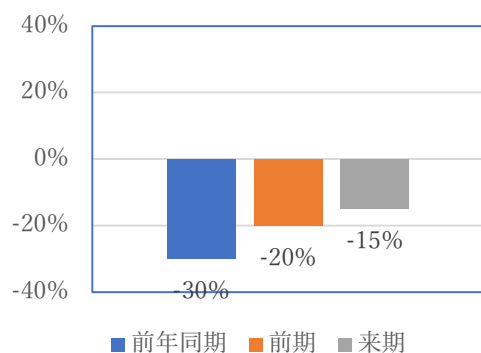
客単価DI



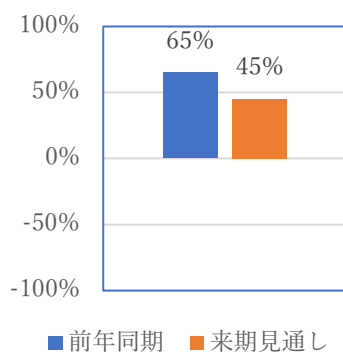
利用客数DI



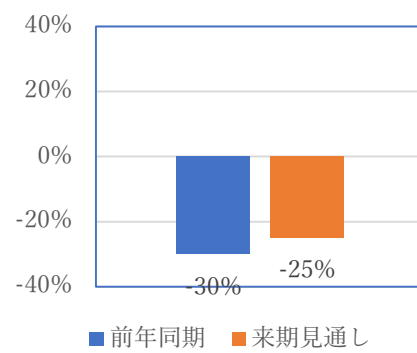
資金繰りDI



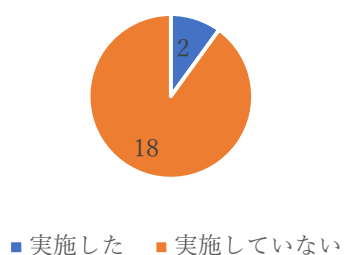
仕入単価DI



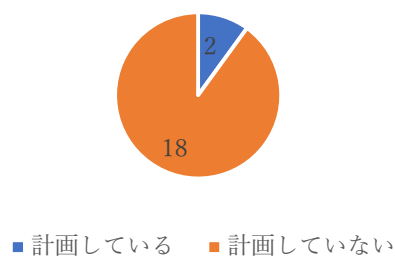
採算（経常利益）DI



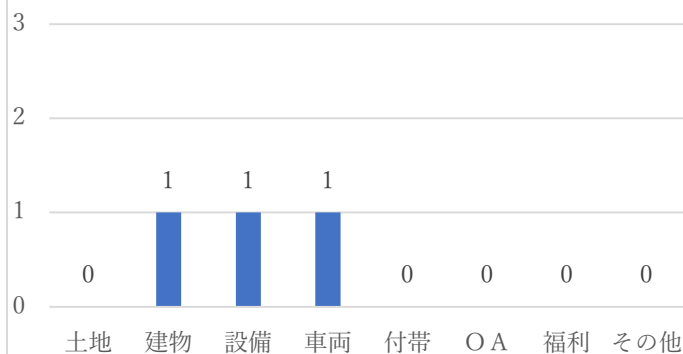
今期設備投資



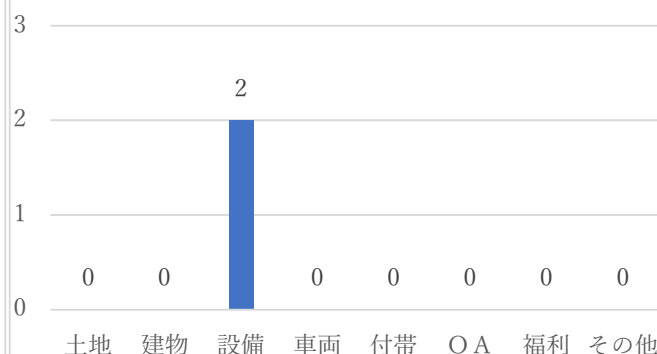
来期設備投資



今期設備の内容



来期設備の内容



直面している経営上の課題

